

# 令和5年度 学校評価報告書

学校番号( 小44 ) 長崎市立(銭座小)学校

## 1 教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、共に生きる豊かな心と、たくましい身体を持ち、自ら学ぶ意欲と確かな学力を身につけた人間性豊かな児童の育成  
 【合言葉】わたしが主人公、一人ひとりが主人公 ～わたしがわたしをつくる わたしの学校生活をつくる～  
 【育てたい資質・能力】 やさしく 互いに認め合い、支え合う  
 かしこく 進んで学び、工夫する  
 たくましく 粘り強く、たくましく

## 2 学校経営方針

生徒指導 ○自己指導力を育てる  
 学習指導 ○教育委実践の核となる授業実践 ○学び方のもちあじを生かす授業  
 特別活動 ○よりより自分、学級、学年、学校生活をつくる力を育てる  
 特別支援教育の充実 ○自立に向かう学びづくり  
 人権教育の充実 ○他他人権を守るための意識、態度、実践行動力を育てる  
 健康教育 ○基本的生活習慣の確立○楽しい体育学習の工夫○ 安全指導

## 3 重点目標

【やさしく】の実現に向けて  
 ○心でつながる「あいさつ・返事」 ○学級づくり・仲間づくり ○教育実践の成果の汎用化  
 【かしこく】の実現に向けて  
 ○どの子どもも確かな学力がつく「わかる・できる授業」 ○確かな学力につなぐ習得  
 ○質の高い、教育活動の構想・実践  
 【たくましく】の実現に向けて  
 ○「休養・運動・栄養」の習慣化 ○「より良い学校づくり」への参画委員会・係活動で貢献を実感  
 ○働く体験の重視 ○自分の命を自分で守る

## 4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果				分析及び改善策
			(肯定的割合・%)				
			児童生徒	保護者	地域	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している(わたしがわたしをつくる・わたしが学校をつくる)	89	87	100	100	教育目標については、児童・職員共に合言葉が浸透し、「主体的に関わる」ことへの意識の高さがうかがえる。 業務の改善については昨年度よりは数値はよくなったものの、依然として満足度は高くない。業務量の軽減や時間を生み出すアイデアを互いに出し合いながら改善につなげていきたい。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	83	83	96	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している				92	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している				77	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	85	87	96	86	あいさつについては、昨年度よりも若干数値が上がっている。地区懇談会等で話題にして取り組んだ結果と考える。一方で、地域から「子どもたちが朝から元気がない」という声も届いている。三者で連携して「あ・は・は運動」を推進し、学校生活目標とリンクさせ、向上に努めたい。 人権教育については、児童の自己評価が昨年度よりやや高くなっている。「人権」やそれぞれの「もちあじ」という言葉や意味も浸透している。「なかまの時間」や「リボン集会」、本校の特色を生かした活動の成果だととらえている。
		挨拶をよくしている(指導・育成している)	93	75	81	79	
		「あ・は・は運動」を知っている(指導・育成している)	81	80	80	86	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	91	84		100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	91	82	78	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	93	82	84	86	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	90	90	92	93	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	92	82		85	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	86	92	96	79	職員の「わかりやすい授業」の項目が昨年度と比較すると、大幅に下がっている。別でとったアンケートから、ICT活用に課題があることがわかっている。A Iドリルや思考ツールなどの効果的活用について研修を深めていく必要がある。 また、キャリア教育については全体的に数値が高くない。キャリアパスポートの活用については、活動のふり返りを次の教育活動につなげられるようにしたい。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている(ICTの活用)	92	79		54	
		家庭学習の習慣が身に付いている	88	79		92	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している(キャリアパスポートの活用)	82	63		27	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	90				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	91	77		69	保護者の評価が全体的に低い。遅刻してくる児童や不登校傾向にある児童が増えていることから、家庭での困り感がうかがえる。学校保健委員会で講師を招聘し、規則的な生活習慣の重要性について学ぶ機会を設けたが、健やかな体を育むための活動と啓発については「あは運動」と併せて来年度も継続して取り組んでいきたい。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	83	71		69	
		体力向上に努めている	93	76	75	85	
	食育	食に関する教育活動を行っている	82	71		77	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	90	90	95	77	職員の評価が、昨年度よりも全体的に低い。通信や便りは定期的に発行されており、情報提供はおおむねできているが、HPの更新に課題が残る。ICT担当と相談し、偏りなく学校の情報が提供できるようにしたい。児童質問の地域との連携の項目が低い、「地域の行事に参加しているか」と質問しているため、積極的な参加を促すよう働きかけていきたい。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	91	84	96	67	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	58	82	92	77	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している				84	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	91	93	96	76	職場環境の数値が低い。「業務改善」と併せて、働き方改革の内容を見直し、時間を生み出す工夫、負担軽減の工夫をさらに進めていく必要がある。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる				54	

## 5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

### 【成果】

○本校の特色を生かした「人権教育」が児童のなかに浸透している。今後も「なかまの時間」や「リボン集会」は継続して取り組んでいきたい。

○「あ・は・は運動」は家庭や地域に認知され浸透してきている。

### 【課題】

○業務改善については、業務量の軽減や時間を生み出すアイデアを互いに出し合いながら改善につなげているところである。来年度に向けて、計画検討委員会を仕組み、それぞれ話し合いを持ち、今年度の反省を生かしながら来年度に向けて起案作成中である。日課の工夫なども併せて進めていきたい。

○基本的な生活習慣の乱れが、学業不振や不登校の原因の一つになっているのではないかと。「あ・は・は運動」を継続して行い、保健指導や学校保健委員会を活用しながら、基本的な生活習慣の徹底を三者で図っていきたい。

## 6 学校関係者評価

### ○あいさつについて

あいさつは、ほとんどの児童から返ってくる。しゃべりに夢中になる子もいるが、会釈を返すなどコミュニケーションは取れている。下校の時間帯に、低学年が一人で帰っている姿を見かけることがあるのが気になる。声をかけたいが、昨今の不審者対応の面から躊躇してしまうこともあ

### ○特色ある教育について

銭座小の特色である人権教育は、児童に根付いていると感じる。進んでごみ拾いや朝の掃除をしている児童がいることにも感じている。他校との交流にICTを積極的に活用しているようだ。今年は特に、個別最適な学習に向けてキュビナを活用していることに感心した。

### ○その他

質の高い教育を目指すためにも、働き方改革は必須だ。ルーティンを取っ払い、児童に向き合うための時間を十分に確保する必要がある。地区懇談会を活用し、不登校児童をなくすためにも規則正しい生活習慣の在り方を家庭と共に図っていきたい。

## 7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○地区懇談会や研修会等を活用しながら、学校・家庭・地域の三者で基本的な生活習慣の定着を目指し、「あ・は・は運動」を継続して行う。

○児童に向き合う時間確保の観点から、校務分掌、通知表の在り方や日課の工夫などの業務改善を行っていく。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。